【どの子も大事】～居場所・かかわり・感動体験～　学校だより

ポプラ

令和2年度
第13号
令和3年
3月22日発行
東大和市立
第四中学校

～ １・２年生の保護者の皆様へ ～

2020年は、当初計画していた教育活動も感染症拡大の影響を受け、安心安全を考える立場から、大きく方針変更をすることを余儀なくされましたが、保護者の皆様方には御理解御協力をいただきありがとうございました。このような状況の中でも子供たちは縮こまらずに、限られた内容ではありますが、様々なことに意欲的に取り組むことができたと思っています。新年度においても、現状から大きく変わることはないと思っています。今年度の反省を踏まえて、できることを工夫して、より充実した教育活動を目指していきます。どうぞ来年度もご協力のほど、よろしくお願いいたします。以下に卒業式の式辞を載せましたのでご一読いただければと思います。

卒業式　式辞

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

今日ここに、義務教育最後の三年間の、全課程を修了できたことを、うれしく思います。

また、このような状況の中、本日、多数の保護者の皆様にご臨席を賜り、第四十四回卒業式を迎えることができましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、この中学校生活最後の一年間は、感染症拡大による緊急事態宣言により、様々な制約を受けることになりました。休校になったり、予定していた運動会や修学旅行、合唱コンクールなどの体験的な活動や部活動が取りやめになったりして、多くのことを学ぶ機会を、与えることが十分にできませんでした。一度しかない中学時代の、心に残る行事を実現できなかったことは、残念でなりません。

しかしながら、そのような状況の中においても、日々明るく過ごす皆さんの姿を教室や校庭に見つけると、限られた時間と場所の中で、一人一人が前を向いて、できることに懸命に取り組んで来たことを感じます。

先日の最後の全校朝礼で、桜の花の話をしました。桜の木が多くの美しい花を咲かせるためには、まずは立派な「根っこ」を、目に見えない土の中にしっかりと張ることが大切なのだと。雨風にさらされてもびくともしない、立派な「根っこ」を張ることが、やがて木々が大きく成長することを助け、きれいな花を咲かせることにつながるのだと話しました。

皆さんに例えるならば、今は一人一人が「根っこ」をしっかりと土の中に張り巡らす時なのだと思います。「根っこ」とは、様々な学びを通して得られた「人間的な豊かさ」だと思います。それは、学校での学びによる「知識や思考」の深まりであり、生活の中で学ぶ「生きる知恵」であり、人とのコミュニケーションを通して学ぶ「多様な考え方」など、多数あります。皆さんがどっしりとした揺るぎない土台を作ることが、伸びる太い幹を支え、枝葉を伸ばし、やがてきれいな花を咲かせるのだと思います。皆さんは後ろに控える保護者の方や先生に、褒められることもあれば、叱られた事もあったでしょう。それはある意味、根っこをしっかりと張り巡らすための、水であり、肥しであったのかもしれません。土の中は、外からは目で見ることができません。自分でもどうなっているか見当がつかないことがあります。だから、土台作りは地味で、不安になることもあるでしょう。ですが、未来を信じて、焦らず、一人一人が素敵な花を咲かせるために、これからも一日一日を大切に努力することを続けて欲しいと願っています。そんな、時間のかかる毎日の積み重ねが大切だと思います。

最後になりますが、今日までお子様の健康を気遣い、良き成長を願って本校の教育活動に御協力くださった保護者の皆様には、大変感謝を申し上げます。今後とも地域の学校として、本校の生徒達を見守り、御支援をいただけると幸いです。

卒業生一人一人が、未来に向かって大きく羽ばたくことを期待し、式辞といたします。

令和三年三月十九日

東大和市立第四中学校　校長　住吉　豊

〔三年表彰者〕　※五十音順

体育優良生徒　細谷　理乃さん（５組）　丸山　正剛くん（５組）

産業技術奨励賞　伊藤　桃花さん（３組）　門脇　圭佑くん（４組）

校長賞　鈴木　花菜さん（２組）　原島　悠斗くん（１組）　柳　美羽さん（4組）

※　多くの生徒が日々努力して頑張っています。その中から、学習や委員会活動、ボランティア活動などにも積極的に参加し、周りの生徒からの信頼があり、良い影響を与えた生徒を特に表彰するものとして、校長賞を作りました。

東京都生徒表彰　平野　翔くん（２組）

令和２年度「友達とのかかわりアンケート」及び「いじめ問題防止アンケート」実施報告

生活指導主任　馬場園　和也

まず初めに、年間３回の「友達とのかかわりアンケート」及び「いじめ問題防止アンケート」の実施に御協力いただき、ありがとうございました。それぞれのアンケート結果について御報告いたします。

実施月	いじめと認知した件数	いじめの疑いがあると思われる件数
第１回（６月）	０件	０件
第２回（11 月）	３件	１件
第３回（２月）	０件	１件

１１月に認知した３件及び１１月、２月の疑いがあると思われる１件ずつは、いずれも友人からの悪口や言葉でのからかいと捉えられる内容でした。東京都教育委員会では、「いじめ」について、「一定の人的関係のある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）＜中略＞当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。(いじめ総合対策【第２次】より一部抜粋)」と定義しています。また、「継続性がない」「偶発的な行為」「相手を特定しない行為」「謝罪などによりすぐに解決した行為」などでも、「心身の苦痛を感じさせた」行為は全て「いじめ」に該当するとしています。

本校では、前述の東京都教育委員会の定義に沿って、アンケートに回答していただいた事例１つ１つに対して、生徒への聞き取り及び保護者の方への状況確認を行い、「いじめ」の認知及び不適切な言動等に対する指導を行っています。

今年度認知した５件（疑いも含む）については、指導を行い、すべて解決済みとして継続的な見守りを実施しています。今後も引き続き、全教職員による「いじめ」の定義に対する共通認識を通して、アンケート等によるいじめの早期発見と、未然防止に努め、「いじめを生まない、許さない学校づくり」を進めてまいります。

最後に、今年度はコロナ禍で様々な学校行事が中止を余儀なくされましたが、保護者や地域の皆様の御協力と温かい見守りのお陰で、大きな事件や事故もなく生徒達の笑顔と笑い声の溢れる学校にすることができました。今後も保護者、地域に信頼される学校を目指して努力してまいりますので、引き続き御協力の程お願いいたします。